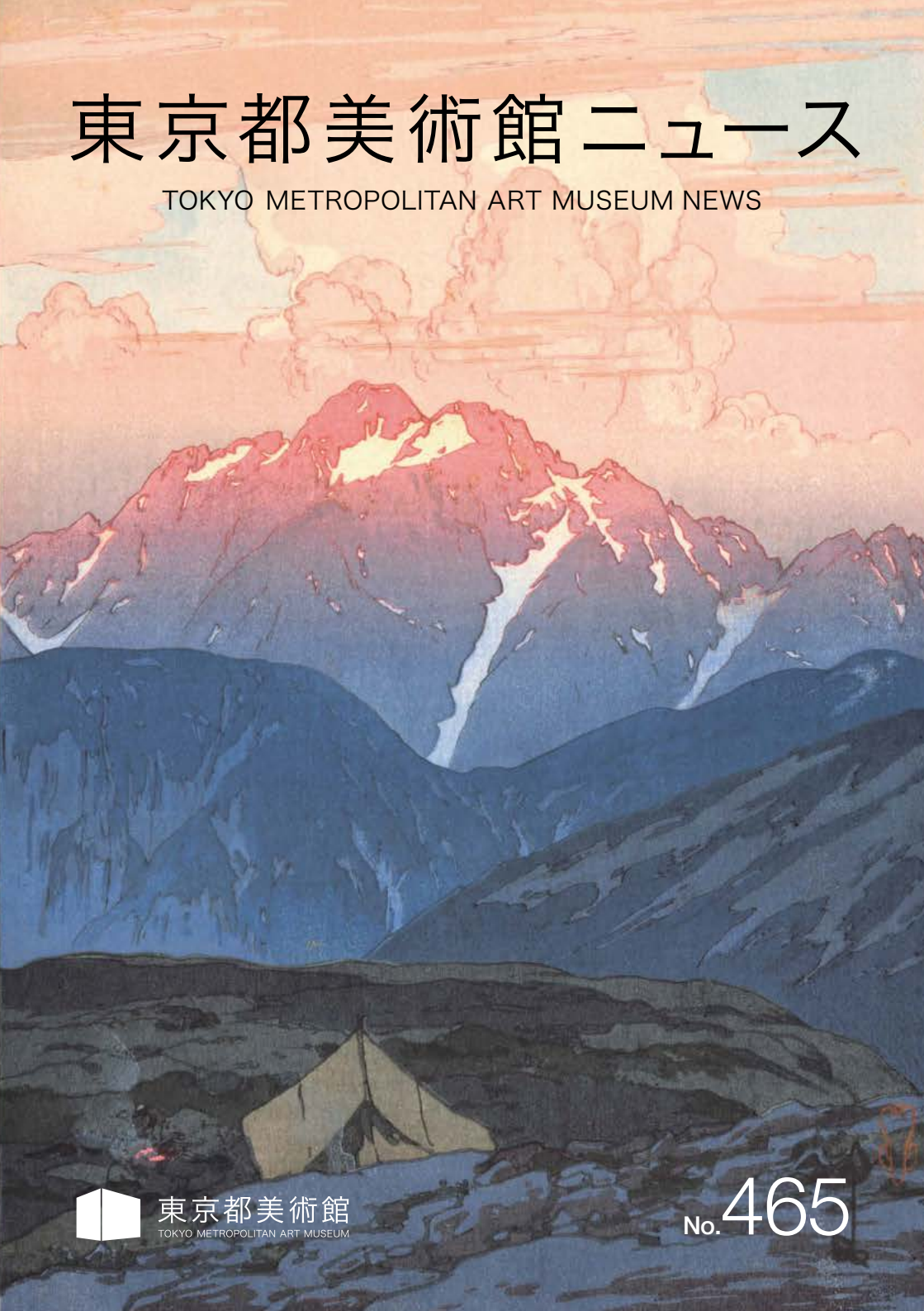


東京都美術館 ニュース

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

No. 465

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。
今回は、約1年ぶりに開催した「障害のある方のための特別鑑賞会」の様子を紹介します。

The Museum offers art communication programs designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we look at "Special Day for People with Disabilities," held after a one-year hiatus.

アート・コミュニケータと
一緒につくるおもてなしの日

「障害のある方 のための特別鑑賞会」

A day of special welcome, enjoyed with "Tobira"
The "Special Day for People with Disabilities"



2020年9月14日(月)に、「The UKIYO-E 2020 — 日本三大浮世絵コレクション」展にて「障害のある方のための特別鑑賞会」を開催しました。対面でのコミュニケーションがとりづらい中、アート・コミュニケータ(とびら)とともに、参加者の方々をおもてなしするための企画を展開しました。

On September 14 (Mon) 2020, the "Special Day for People with Disabilities" was held at "The UKIYO-E 2020" exhibition. Because conversing face-to-face is currently difficult, a special day of welcome enjoyed along with art communicators ("Tobira") was prepared for participants.

「障害のある方のための特別鑑賞会」とは？

What is the "Special Day for People with Disabilities"?

普段は混雑している特別展を障害のある方が安心して鑑賞できるよう、休室日に開催する鑑賞会です。事前申込制で特別展ごとに開催しています。アート・コミュニケータ(とびら)が受付や移動などのお手伝いをします。

Because Special Exhibitions are often crowded, the "Special Day for People with Disabilities" is held on days when the galleries are closed so participants can view artworks safely and comfortably. Prior application is needed for the viewing event, held once during each Special Exhibition. Viewing is conducted by art communicators ("Tobira"), who greet the participants and assist them in seeing the exhibition.

コロナ禍で、おもてなしの 気持ちを伝え、 ゆるやかなつながりを作るには？

Creating a mood of welcome and
relaxed connection amid the coronavirus crisis

1999年にスタートした「障害のある方のための特別鑑賞会」。参加者が安心して展覧会を楽しんでいただけるよう、2012年からは「とびらプロジェクト」のとびらと、2015年からは「とびらプロジェクト」で3年間の任期を満了したアート・コミュニケータが準備段階から関わり、当日の鑑賞のお手伝いやお声がけを行っています。

コロナ禍の中、約1年ぶりの開催となった「障害のある方のための特別鑑賞会」では、従来のように会場で言葉を交わす状況だからこそ、おもてなしの気持ちを別の形でお伝えすることができないかと考え、「ウェルカムキット」というプレゼントをお渡しすることにしました。とびらお手製の消しゴムハンコを押したオリジナルシール、お手紙募集の案内チラシとレターセット、とびらオリジナル音声コンテンツの案内チラシ等を1つにまとめたものです。

中でも、お手紙募集のプロジェクト『美術館でつながるお手紙プロジェクト』は、美術館での忘れがたい思い出を、同じように美術館での思い出を大切にしている誰かに届けてみませんか？と参加者からお手紙を募集するものです。作品を通じて時間や空間を越え誰かと出会うこ



当日の「The UKIYO-E 2020 — 日本三大浮世絵コレクション」展会場風景
Scene of the "Special Day for People with Disabilities" at "The UKIYO-E 2020" exhibition

とができる美術館での体験を共有しあうことで、ゆるやかなつながりを生み出せたらという思いで企画しました。郵送いただいたお手紙はとびらプロジェクトウェブサイト*1で1通ずつ紹介しています。

また、オリジナル音声コンテンツ『とびらラジオとびら』が語る5つの浮世絵』では、とびらが「The UKIYO-E 2020 — 日本三大浮世絵コレクション」展の作品から思いを巡らせ、独自に創作したオリジナルストーリーをラジオ番組形式でお届けしました。本コンテンツは、とびらプロジェクトウェブサイトで期間限定公開し、とびらたちが想像した作品世界を参加者にご自宅でお楽しみいただきました。

当日は、介助者を含む271名の参加者にゆったりと展覧会を味わっていただきました。作品1点1点を丁寧にご覧になる姿が印象的でした。「ウェルカムキット」のお渡しを担当したとびらは、参加者が嬉しそうにオリジナルシールを選ぶときの笑顔を見ることができ非常に感激したそうです。

今後もゆったりとしたペースで楽しんでいただけたら安全にお届けできたらと考えていま

す。次回は「没後70年 吉田博展」で開催予定です。開催日時、対象、申込方法など詳細はウェブサイト*2で告知いたします。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

(東京都美術館 学芸員 熊谷香寿美)

The Special Day for People with Disabilities took place, this time, at The UKIYO-E 2020 exhibition. Because conversing would be difficult, we wondered if we might create a mood of warm welcome in a different form. Hence, we provided each visitor with a "Welcome Set" present. The set included uniquely created items stamped with eraser "seals" crafted by "Tobira", a flyer introducing our "letter project" soliciting letters from visitors about their memorable museum experience, and a flyer introducing our audio program featuring original stories—narrated in radio format—by "Tobira". On that day, 271 people (including caregivers) took part and enjoyed touring the exhibition. Hereafter, we will continue to regularly offer this special day when the visitors can enjoy the artworks safely at their own pace. The next event will be held during the exhibition "Yoshida Hiroshi: Commemorating the 70th Anniversary of His Death." (KUMAGAI Kazumi, Assistant Curator)



「ウェルカムキット」 Welcome Set

*1 <https://tobira-project.info/>

*2 <https://www.tobikan.jp/learn/accessprogram.html>

東京都美術館の正門付近からも見える旧寛永寺五重塔は、当館で開催する「没後70年 吉田博展」(会期:2021年1月26日~3月28日)に出品される木版画にも描かれています。寛永8(1631)年、のちに江戸幕府の大老となる土井利勝によって上野東照宮に寄進され、寛永16(1639)年に火災により焼失しましたが、同年に再建。明治期の神仏分離令により各地の神社所有の塔が取り壊される中、寛永寺の所属とすることで難を逃れ、昭和33(1958)年には寛永寺より東京都に寄付されました。高さは32m(先端の宝珠^{ほうじゆ}までは36m)、江戸初期における仏塔建築の典型的な建造物として国の重要文化財に指定され、現在は恩賜上野動物園の敷地内で再建当時の美しい姿を伝えています。

(東京都美術館 広報担当係長 山崎真理子)



旧寛永寺五重塔 The Five-storied Pagoda
©(公財)東京動物園協会

The Five-storied Pagoda, prominently visible from near the Tokyo Metropolitan Art Museum's front gate. A work depicting the pagoda will be displayed in the exhibition "Yoshida Hiroshi: Commemorating the 70th Anniversary of His Death" (January 26 - March 28, 2021, Tokyo Metropolitan Art Museum). Erected in 1631, it was rebuilt in 1639 after destruction by fire and now stands on the grounds of the Ueno Zoo. Some 32 meters in height, it has been designated as an Important Cultural Property.

(YAMAZAKI Mariko, Chief of Public Relations)

東京都美術館 ニュース No.465

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS

発行日 2020年12月31日
発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
企画・編集 東京都美術館 広報担当
デザイン 株式会社ファントムグラフィックス
翻訳 アムスタッツ コミュニケーションズ
印刷・製本 株式会社ルナテック

©Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館
〒110-0007
東京都台東区上野公園8-36
Tel 03-3823-6921
Fax 03-3823-6920
公式サイト
<https://www.tobikan.jp>
Twitter
tobikan_jp
tobikan_en
Facebook
TokyoMetropolitanArtMuseum

表紙の
写真

吉田博《日本アルプス十二題 劔山の朝》(部分)大正15(1926)年
YOSHIDA Hiroshi, *Morning on Tsurugisan, Twelve Scenes in the Japan Alps* (detail), 1926